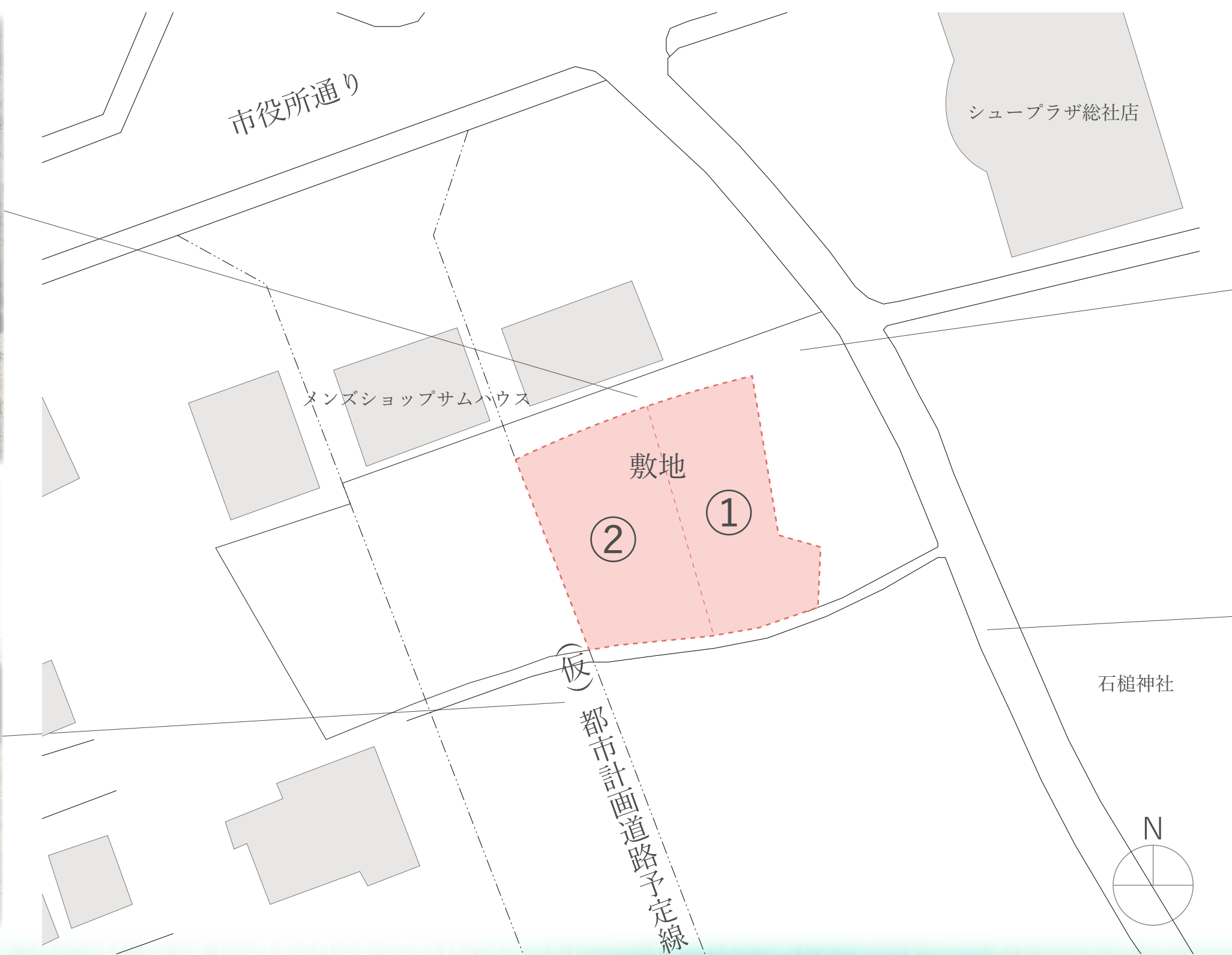


つなぐ 軽系

— 郊外地に建っモデル住宅 —



□敷地図 S=1/500



□共同研究

敷地①では、倉敷市の不動産業者との共同研究により、実際に住宅を建設する予定である。また、このモデル住宅の計画案はこの土地以外にも展開できるものでありながら、それぞれの土地がもつ敷地環境にも対応できることが求められている。施主である不動産業者にはこれまでに10回の提案を行ってきた。最終案は、コスト面も考慮され、コンパクトな住宅になっている。



▲提案の様子

□研究から得たこと

ルイス・I・カーンの住宅を研究したことから、展開性のある住宅の設計を行うには、住宅という空間を要素ごとに分化し、敷地に合わせて結合していくことで、成り立つのではないかと考えるに至った。さらに、内と外を取り持つ中間領域を設けることで、展開性もありつつ、各敷地環境に対応できるのではないかと考えている。

その考えを検証すべく、敷地①の住宅のみならず、敷地②にも住宅の設計を行った。敷地②の西には将来的に都市計画道路の開通が予定されているため、貸店舗付きの住宅を設計した。

□施主からの要望

- ・展開性・汎用性がある住宅
- ・45～50歳の夫婦 + 子供1～2人で、所得が高い人の想定
- ・親戚や友人を呼んでパーティーができるような空間が欲しい
- ・平屋、もしくは一部2階建て
- ・中庭やテラス等の内と外が共用できるような空間が欲しい(メインとサブを設ける)
- ・駐車スペースは3台分(アクセス的に南に駐車場)
- ・積極的に段差を設ける
- ・老後のことも考慮し、主寝室と水回りは1階にまとめる
- ・洗濯干し場は顔でない場所に設ける
- ・水回り近くにクローゼットを設ける
- ・玄関周りに贅沢なほどの収納を設ける(趣味部屋としても利用できるように)
- ・ゆとりのある空間
- ・玄関に靴箱がないように
- ・メイン以外の空間はコンパクトにする
- ・南からの光を取り入れる



▲中間領域のイメージパース

□コンセプト

1. ブロックで構成する

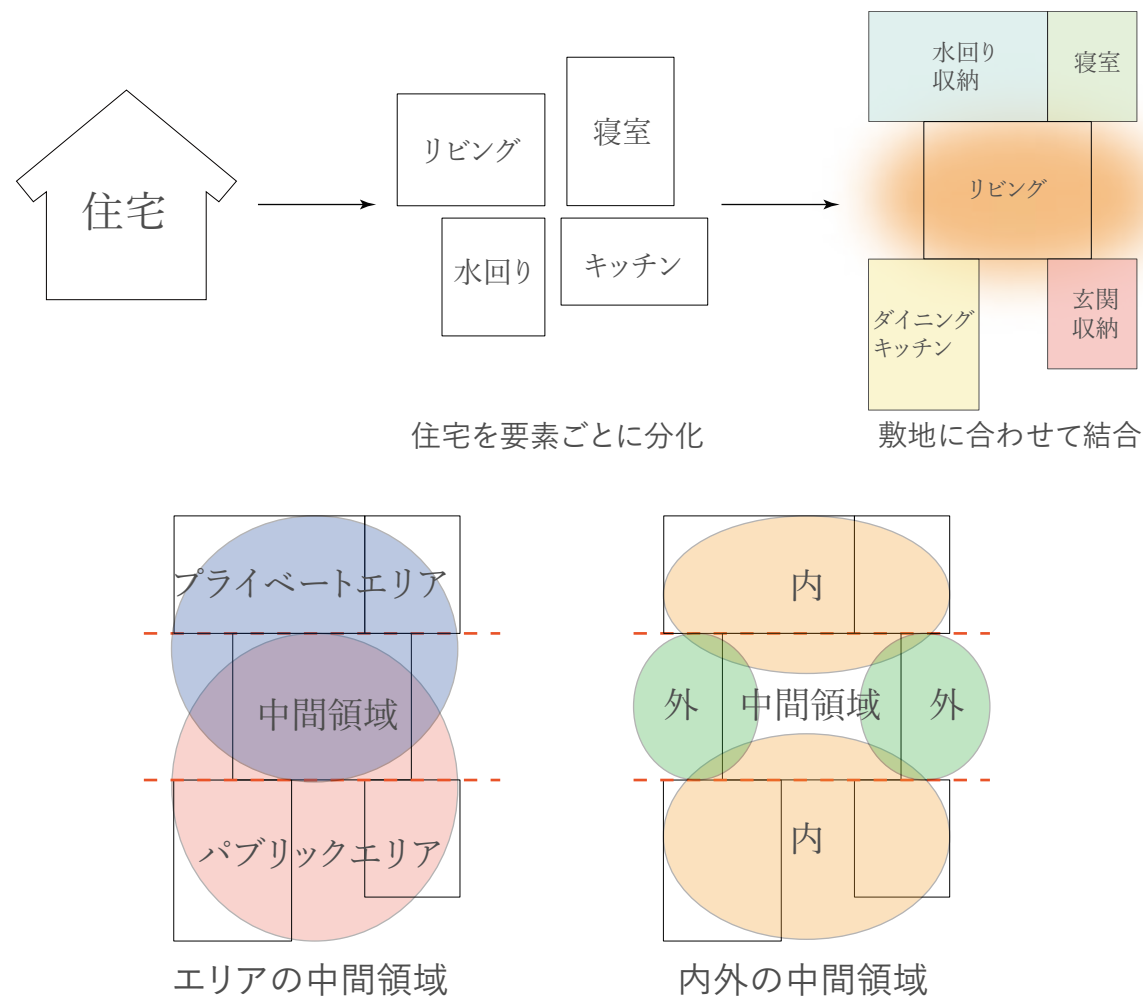
住宅の中で、要素ごとに空間を分化し、敷地に合わせて結合する。そうすることで、異なる条件に合わせてプランニングを行うことができる考えた。

また、ブロックをつなぐ部分には、リビングやダイニング等の人が集う空間を持つてくることで、廊下等の無駄な空間を最低限にすることができる上に、どのスペースに移動するにも必ずその空間をを通ることになるため、家族や親戚、友人等の人の気配を常に感じることができる。

2. 中間領域

中心に位置するリビングやダイニングといったブロックの繋ぎとなる部分には、パブリックエリアとプライベートエリアの中間、内と外の中間等の中間領域を設ける。住人がくつろげる場所でありつつ、来客者がいるときは賑やかな場所になる。

また、内でありながら外にいるような雰囲気イメージして、ガラス張りにし、テラスと一体になるような空間にした。リビング内にも植栽を配置する計画にしている。



□これまでの提案

1回目の提案	2回目の提案	3回目の提案	4回目の提案	5回目の提案
完全平屋のプラン。中間領域として、部屋と部屋の間に小さなテラスを6つ設けた。南のテラスのみ、パブリックな空間になる。	一部2階建てのプラン。2階建てにしたことで空間に余裕がうまれた。中心部のリビングとそれに付随するテラスを中間領域として設けた。	挑戦的にアールの壁を用いたブロックを組み合わせたプラン。配置等の計画は2回目の提案とほとんど変わらない。	3回目提案時のアール壁を内側に配置したプラン。つながりとなるダイニングやキッチンが広がった。	2回目提案時のプランに戻り、検討したプラン。中間領域として設けた中心部のリビングを、キッチンと入れ替えた。
6回目の提案	7回目の提案	8回目の提案	9回目の提案	10回目の提案
リビングとキッチンを中心に、階段のみにアールを用いたプラン。広い土間収納が欲しいという要望で玄関横に土間収納を設けた。	前回から土間収納の場所と広さを変更したプラン。玄関からだけでなく、キッチンから収納に行けるようにした。	完全平屋に戻したいという要望があったため、完全平屋に戻したプラン。アール階段は残し、2階テラスに行くために外部に取り付けた。	一部2階建てに戻したプラン。メインのリビング以外の各部屋をコンパクトに収めた。アール階段も内に戻した。	最終的にまとまったプラン。現実的な使い勝手を考え、2階北のテラス、アール階段の変更を行った。ほぼこの案で建設される予定。

□敷地①の住宅

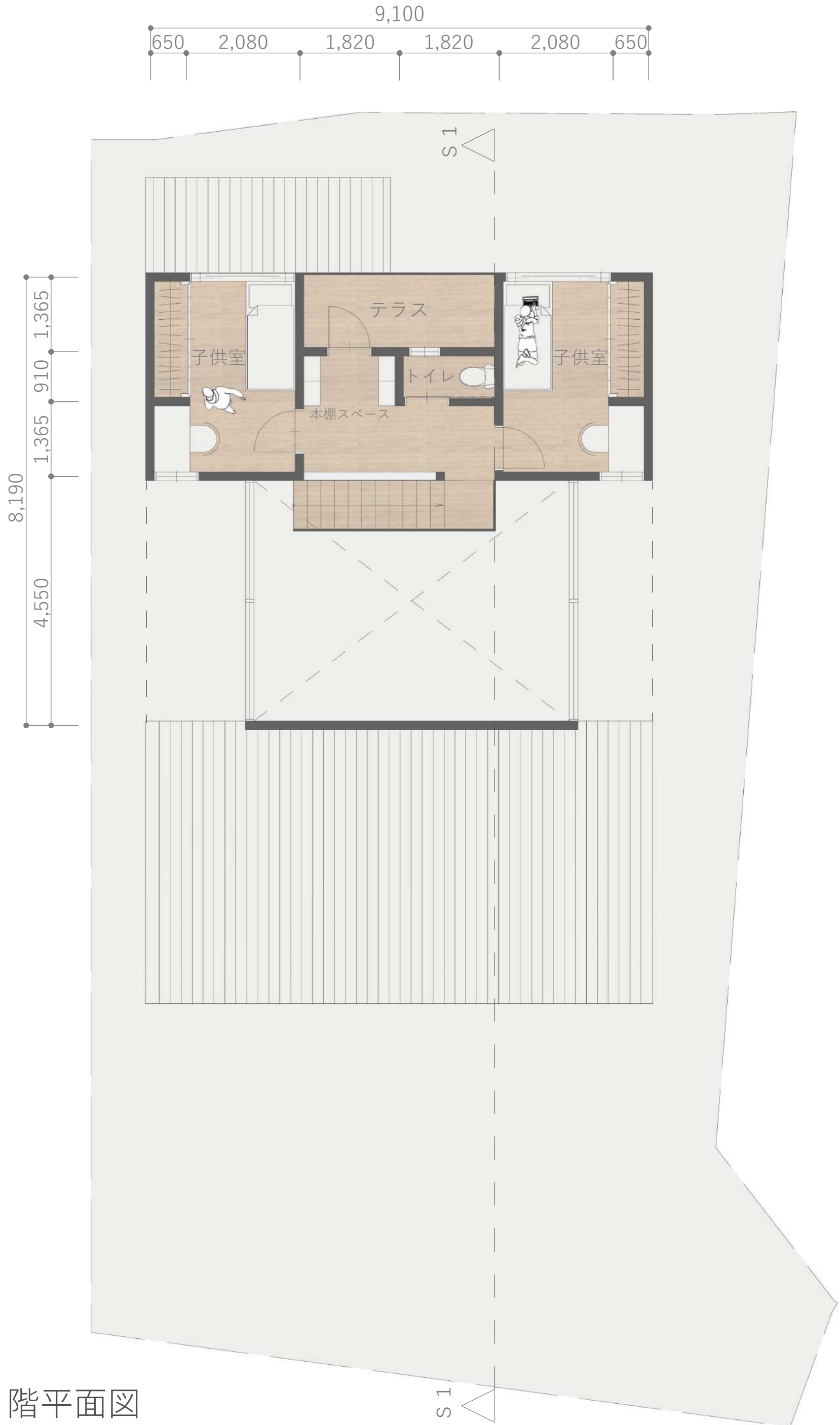


▲敷地①の住宅の外観パース

□平面図 S = 1/70



1 階平面図



2 階平面図

※この案は10回目提案時のものからコンセプトをより意識したものにするため、少し改良しています。

□敷地①の住宅

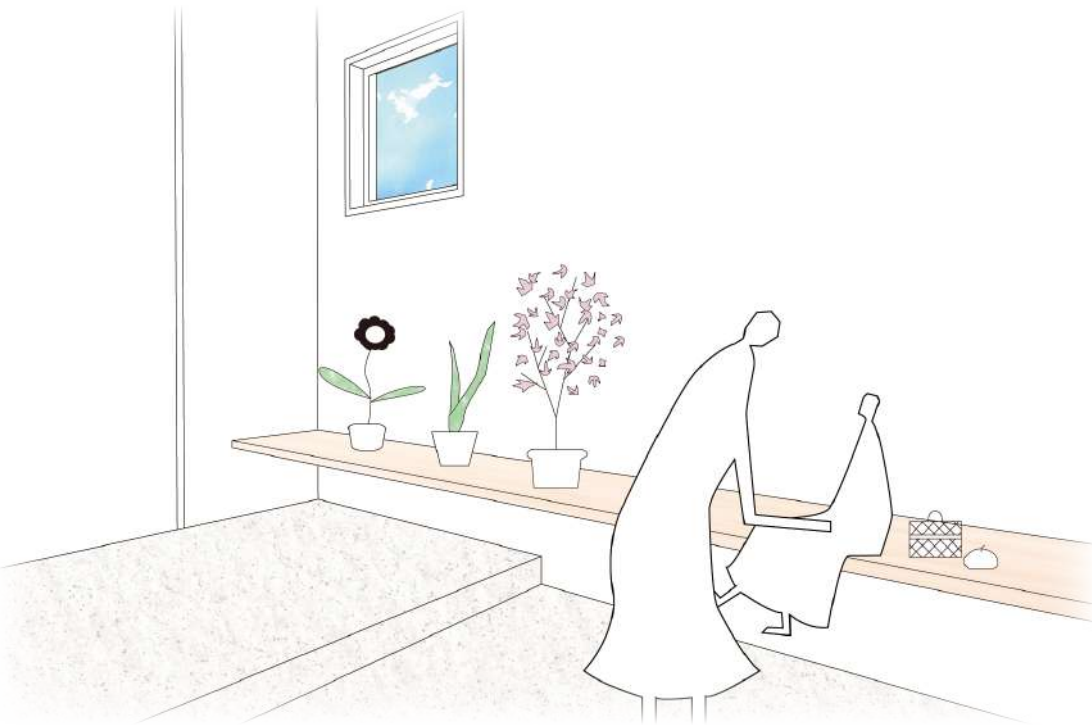


▲敷地①の住宅のリビングパース

□玄関

玄関には、腰掛け兼棚を設置する。小さい子供の靴を履かせてあげる時、お年寄りが靴を履く時には腰掛けとして利用する。来客予定がある日には家の顔である玄関に植物などを飾ることもできる。

また、あえて靴箱の位置を設定していないのは、収納としてこの棚を利用するのも考えられるからだ。玄関自体も広いため、もちろん靴箱も設置できる。住人の好みに合わせて使い方が様々考えられる。



□1階と2階のつながり

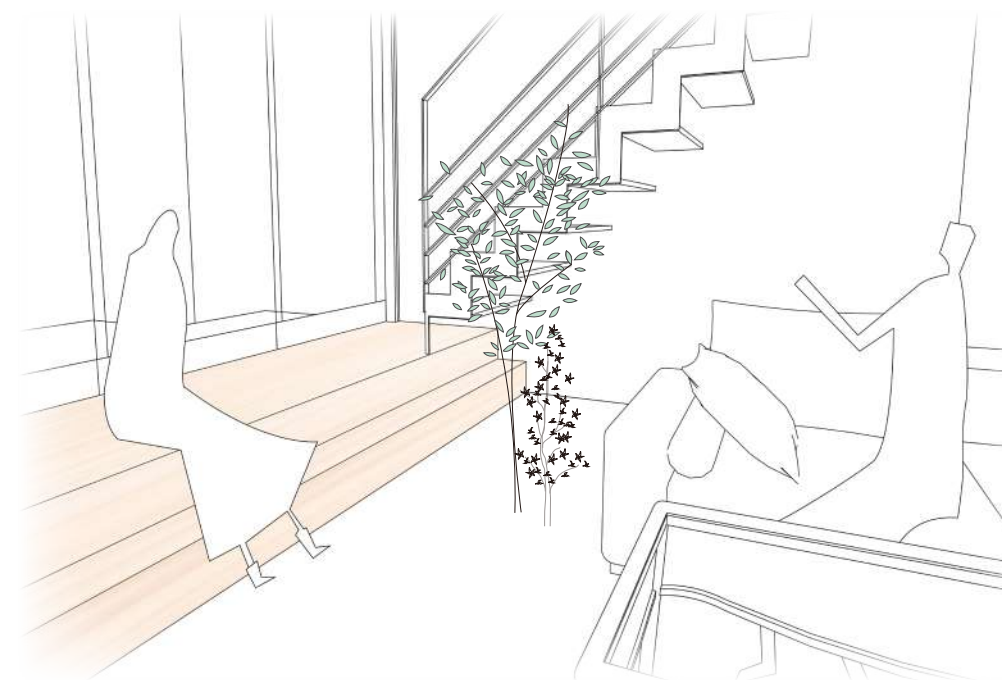
リビングは吹き抜けになっていて、1階と2階を繋ぐ中間領域として存在する。2階の本棚スペースの南側はその吹き抜けを見下ろせるような開口があり、どちらのフロアにいても常にリビングにいる人の気配を感じることができる。



□リビングの段差

この家のメインとなるリビングの西側に、400 mmの段差を設けている。この段差はキッチン・ダイニングにつながっていて、そこに行くための階段になる。また、この段差から折り返す形で2階につながる階段を設置しているため、2階に行くための階段にもなる。

その他に、リビングでパーティーをする際には腰掛けとしても利用できるようになっている。玄関の腰掛け兼棚と同じように、リビングを彩る植栽などを飾る棚としても活用できる。



□東のテラス

リビングに付随する東のテラスはこの家のテラスの中で一番メインとなる。屋根がかかっていて、中間領域の役割としても存在する。リビングと仕切るガラスの戸は全開することができ、テラスとリビングが一体となるようにレベル差もつけていない。使い方のイメージとしては、皆でバーベキューをしたり、住人が外で一息つきたいときの休憩の場所として機能する。



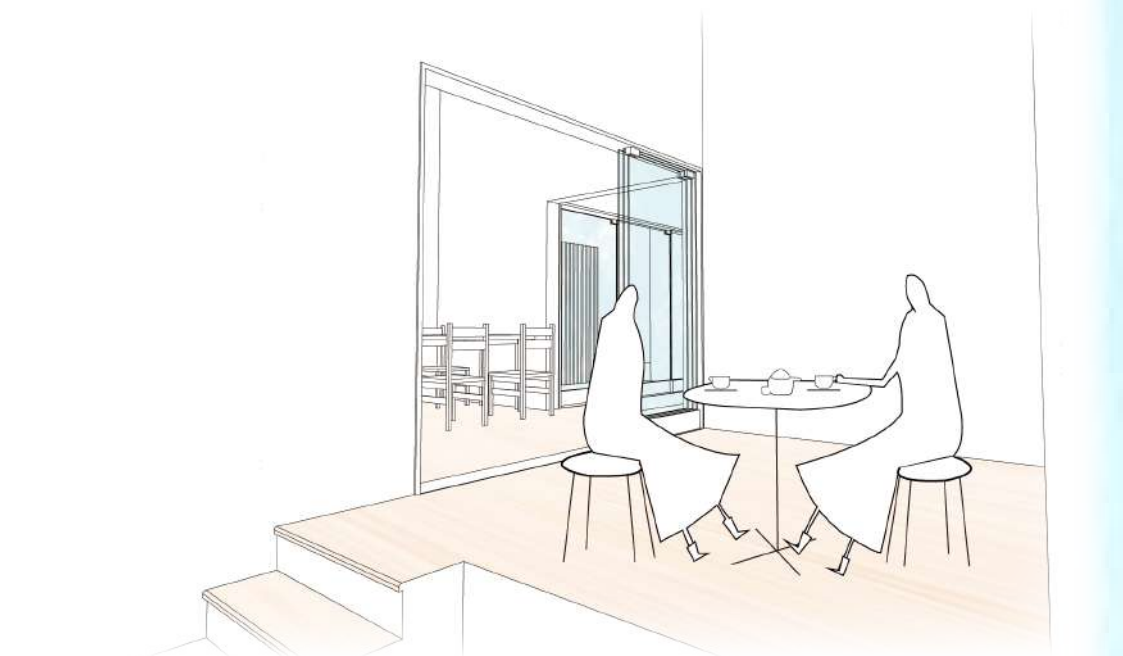
□西のテラス

リビングに付随する西のテラスは高さがGLから700 mm上がったところにあり、リビングにある段差と同じレベルにあたる。リビングと仕切るガラスの戸は東のテラスと同様に全開することができ、東西の戸を開けば風が抜ける。東のテラスはどちらかといえば「ソト」寄りのテラス。西側は「ウチ」寄りのテラスのイメージ。床は木のため、日中にごろんと寝転がって休憩できるテラスのイメージ。

□南のテラス

この家にはたくさんのテラスが存在するが、それぞれ異なった使い方ががある。

1階にある南のテラスは道路と面した場所にある。屋根がかかっていて、キッチンにもすぐ出入りができる。そのため、ご近所さんとお茶をするような、パブリックなテラスのイメージ。



□北のテラス

2階北側には本棚スペースから出ることのできるテラスがある。北であるため、直射日光は当たらないため、気持ちの良い天気の際はテラスに出て読書などができる。

また、外観的に北の面の高さが高いため、テラスを設けて少し凹ませることで圧迫感を軽減させる目的もある。

